

2024 年度運営方針

1) '24 年度の運営方針

第三次法人中期事業計画（2018-23 年度）達成のため、その進捗状況を上記総括において検証した。

そして次年度には第四次法人中期事業計画（2024-29 年度）の策定に取り掛かる所存である。しかし入所サービスにおける療養床稼働率の低迷が続いており、これについては経営上の重要課題であるため、中期事業計画の更新を待たず引き続き相談員を中心として抜本的な対策を講じていきたい。

なお当法人では上記の如く 6 年ごとの中期事業計画を策定し、年度総括・方針はそのロードマップに沿ったマイルストーンという位置付けとしている。

そしてそれを踏まえ、引き続き次年度の方針を以下のように定める。

- ① 「労働分配への配慮、及び適切な収支管理と内部資金の留保」、という経営方針。
- ② 「安全な暮らしの継続」「願い、回想から実現へ（用語説明参照）」、という運営方針。
- ③ 「組織強化と人材育成のための日常的な努力」、という管理方針。

そして具体的には、以下を実践する。

まず、“社会はポストコロナ、病院や施設はゼロコロナ”という解離した実態を踏まえつつ、病原体の感染性と致死性について日常的な情報更新を怠らず対策を見直し、その精度を究めていく。

また引き続き、入所・通所・訪問によるリハビリテーションをより一層充実させ、個々のご利用者に対して、生活機能面で何らかの“ギフト”を協力して創り出していく。

更に例年にならい虐待防止・ケアの充実はもとより、ハラスメント防止対策についても職員に対し研修機会を設け、更なる徹底に努める。

開設以来、疾病治療という狭い枠組みを超えて、生活回復・自立（律）支援の観点から、広く厚みのある援助を心がける風土を育んできたが、今後もより一層励んでいきたい。

用語説明：「願い、回想から実現へ」

ご利用者ひとりひとりの楽しみとなる願いを見つけ出し、その実現を約束して援助し、その経験と期待を基礎にした再体験への希望が、普段どおりの暮らしを取り戻そうという意欲を回復させ、また新たな願いに目覚めるといふ、好循環の螺旋とも言うべき行程の構築。

「普段どおりの暮らし」の回復から「おもいおもいの願い」の実現に向かうためには、まず埋没した記憶の底から、ご利用者自身が抱いていた願いを引き出してくる作業が必要。そしてその想起された願いの実現に向かって、職員も思いを共にして援助する、というプロセス。